



名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 891



超私の奉仕

SERVICE Above Self

2005~2006年度

R.I. 会長

カール・ヴァルヘルム

ステンハマール

<本年度クラブ会長方針>

「チャレンジ」

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル
 会長 草野 勝彦 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email office@nagoya-osu.org
 幹事 鬼頭 茂成 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

職業奉仕月間・米山月間

第104回例会

ガバナー公式訪問

3RCC合同例会

名古屋中・名古屋栄・名古屋大須

於 名古屋観光ホテル

2005年10月3日(月)

会員 68名

出席計算数 64名中44名出席

出席率 68・75%

前回出席率 100%

ロータリーソング

「君が代」「奉仕の理想」

ゲスト

ガバナー 高橋 治朗さん
 地区幹事 川島 誠さん

二二ボックス

高橋カバナーをお迎えして。
 岡部 快園 渡辺 観永 酒井 修
 草野 勝彦 伊藤 清次 横井 衛
 鬼頭 茂成 尾上 昇
 ゴルフ当りました。 高木 政義

会長挨拶

名古屋中RCC会長 大脇 始
 「指名を頂きました中RCCの大脇であります。どうぞ宜しくお願い致します。」

今、SAAから紹介がございましたように、本日は、名古屋大須・名古屋栄・名古屋中の3RCC合同で

高橋カバナーをお迎えしての公式訪問日です。高橋カバナーにおかれましては、大変お忙しい中、私共のロータリー活動を前進させ、かつ充実させる重要な指針のご教授とご指導にご訪問頂きまして誠に有難うございます。「訪問を心より歓迎致しますと共に、感謝申し上げます。ごも有難うございます。」

高橋カバナーには、3月に開催されました会長エリートセミナー、5月に開催されました地区協議会の2回にわたり、本年度のローターマと地区の4つの「方針」についてご教授を頂きました。その上で、今日は10時半から3RCC合同で会長、幹事懇談会ということで、改めて3RCCにそれぞれご指導を賜りました。高橋カバナーの的確なご指導に、この場をお借りして3RCCを代表して厚く御礼申し上げます。有難うございました。そして高橋カバナーには後程お話を頂けるかと思いますが、改めてご指導の程、宜しくお願い致します。

次に、私共ロータリークラブも事業の一翼を担ったと言っても過言ではない、愛・地球博が予想を遙かに超える2千2百万人強の入場者があり、大成功の評価を得て、先週の日曜日、9月25日に無事閉幕致しました。特に建設資金の殆どが当地区の会員の浄財で賄われましたロータリー館は、1案内のように、

「ロータリーのみならず多くの皆さんにも大変好評で、約2万2千人の方がご利用された」と、閉幕日の前日に開催されました「ロータリー館」よならパーティで豊島館長が述べられておりました。このように、万博でロータリー館が大変好評であったという点については、1案内の通り、愛・地球博の成功は今年度の地区の4つの「方針」の一つでもありますので、高橋カバナーにおかれましては、ご満足されておられると思っております。今日は、時間の関係がありますのでこの辺で終わりますが、最後に、高橋カバナーにはまだまだ公式訪問でのご多忙を極めるかと存じます。体調に留意され、私共クラブの変わらぬご指導をお願いいたします。大変ご挨拶ではございますが、ガバナー公式訪問歓迎のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

R-1第2760地区ガバナー

高橋 治朗さん



「こんにちは。高橋でございます。今日は目の前に、加納先生と岡部さんという重鎮がいらつしやるものですから、大変吉がもつて話にくい訳ではありますが、「多分」ということだらうから15分位でいいよ」という有難いお話を伺いましたものでありますから、55分までとさせていただきます。」

この度は、万博だとか色々ございまして、合同例会ということをお願いいたしました。今回は3クラブ一緒にやって頂いた訳でありますけれども、他の分區でも、酷いのは5クラブ一緒にお願いしたいということもありません。大変奮闘を買っていただきますが、お陰様で万博の方も終わります。大変成功でございました。特に、ロータリー館につきましても、今も会長からお話がございますように、大体2万2千人の方に利用頂いたということでありまして、これは、2千2百万人という万博全体の来場者の0.1%に当たる訳です。

どういつ訳か、アメリカの人口2億9千万人のうち、40万人位がロータリーアンということ、人口割にすると0.1%ということになっておりますので、今回のご利用は、大体アメリカ並みのロータリーアンに対する理解度——あまり関係のない数字ですが、念のため、日本は大体、1億2千万人位で10万人ちょっと

ですから、人口割にしますと83%と
らうことになる訳でもあります。そう
いう意味からいって、もう少しメン
バーを増やしてもいいかなと思いま
す。たぶんはスウェーデンなどは、
これが83%という非常に高い割合
で、ロータリアンが国民の中を占め
るというよりもありますが、今度の
万博の来場者を見ますと、大体アメ
リカと日本の中間位ですのよ、「こ
んなものかな」と感じた訳でありま
す。

また、このロータリー館の建設に
関しましては本当に皆様に多額の
ご寄付を頂きました。お陰様で、あ
れは特別会計ですのうで、また報
告があると思いますが、取り壊しを
するにこの前準備は済ませました。ま
た記念誌を作るとかいうことで皆
様の「記憶に留めて頂くための費
用も若干かかるものですが、最終
的には年末か来年にかけてハッキ
リするのではないかと考えており
ます。いずれにせよ、後程、ハッキ
リした形で「報告書」を上げて頂くこ
うになると思っております。

今年度のローターマは、『超我の
奉仕』というより、スピンハマー
会長も、10年目の新しい世紀に入る
というより、1911年に適ったがたち
で「原点に返る」という意味も含め
て新しいローターマを出したと思っ
てあります。これは、実はこの
「Service Above Self」という言葉。

この間米山梅吉さんの単行本が出
まして、「これを読んでおりましたら
お気づきになった方も多いと思い
ますがそれについてのコメントが
いろいろありました。米山さんが昭和14年
仙台の放送局で、仙台市のチャー
ターナイトに關して仙台の中央放
送局でお話になったというところ
ありますが、その頃は当然NHKし
かなかつた訳でありますから、NH
Kを使って米山さんがロータリー
のお話をされたというところであ
ります。

これをちょっと読ませて頂きま
すと、「交わりを広くして奉仕の機
会を得る」と。実業及び専門職業の
道徳水準を高め、有用なる業務の価
値を認めてその尊厳を保ち、もって
社会に奉仕すること。個人としての
業務関係並びに社会共同生活の上
に、常に奉仕の理想を期待するこ
と。奉仕の理想を持って結合し、
実業及び専門職業として世界の和
合親善、ひいては国際平和の促進を
する」と。このロータリー精神は、
いたる所に道義を説いてこれを心
意状態に留めるだけでなく、その実
現を期するために『Service Above
Self』即ち奉仕を標榜するもので
ある。よく聞いておいてください。
ですからチャーターナイトであつ
ても、一般の方にもロータリーとは
どんなものかというところでお話し
になった一節をめぐらしてみたい

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

勿論1911年「Service Above Self」
となる前には「not self」とか、色々
あった訳であります。1911年からは
1つのロータリアンとしての心の
持ち方という意味での「Service
Above Self」を、今回、今年度のチ
ャーターナイトスピンハマー会長がお
話された訳であります。ただ、
そういうことで、米山さんも昭和14
年の頃、日本人としては「Service
Above Self」これが奉仕だ」という
でありました。別に「not self」と
か「above self」とか、奉仕にあまり
ランキンブはないのではないかと。要
するに思いやり——自分が相手に
押しつける奉仕ではなく、相手の立
場になった形での奉仕だ。結果と
しては、「奉仕」と言いつつ、ちよつと
固い感じがするのであります。皆
様がそれぞれのクラブで、色々な
…青少年交換だとか環境保全だ
とか、色々なクラブ、毎年であれ、継
続性があれ、やっていると、い
仕がある訳ですから、そういうもの
のそのままだ延長線上に、もしくは現
在そのものが「超我の奉仕」だと考
えれば、別に「新しい何をやらねば
『超我の奉仕』になるのか」とかい
うことにはなくて、皆様、社会のた
めになるという自信を持ってやれ
ば、それを受けた人が、今度は「こ
ういふことは人にお返ししなければ
なりません」と思いつつ、この輪がど
んどん広がっていくのが、その種を
蒔くのが本当の奉仕ではないかと、
私は勝手に解釈している訳であり
まして、別にnot selfでもabove self
でも結構だというのを言っている訳で
あります。

というよりは、先日、ちょっと關
西の方が来て、その辺の話もされた
ので、同じにもその話をお聞きに
なされた方がいろいろと、思いつ
ておぼろげな意味で「not self」の
notとはどうの意味ですかという
話であります。1905年に4人で始ま
ったロータリークラブが、1年、2年
経って20人、30人になると。そ
うすると、1つの職業に1人しか入
っていない訳ですから、それぞれが、
自分が何かしたいなと思つて、サー
クルの中で何が済んでしまう。逆
に言つと、サークルに入っていない
ロータリーに入っていない人にと
つてみれば、それは食事をして、お
金持ちが勝手に自分達だけで商売
している。非常にselfish【利己的】
だという意味で、それはちよつとお
かしいのではないかと。もつと社会と
つながりを持って、社会にそれらを
還元して、かゝ自分達だけで「ハンジ
ョ」するのではなくて、もつと一般の
人にお返しすべきなのではないか
というのが「not self」ではないか
という話がありまして、それから
「above self」になつていきました。
要するに自分達のグループだけで

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

はなくて——勿論それはそれで良
い訳ですが、もつと広く考えたロー
タリーというものを認識してやら
ないと、お金持ちだけの集まりに
なつてしまつていってしまう。そ
う自分達の自制を込めた発想が
「above self」なのではないかと
いうことを仰つていました。僕もま
さに、そういうこともあるだろうな
と思つた訳であります。というこ
とは、やはり、思いやりを持った日
本人的に、自然に対する優しさや、
人間同士、お互い信頼できるよつ誠
意を持って尽くすことが1つの奉
仕であつて、それが職業奉仕であ
れ、国際奉仕であれ、色々な所で自分
の精神が出れば、形としては色々な形
に現れる訳ですが、そういう気持ち
を持つための1つの場がロータリ
ークラブの例会ではないかと思つ
てあります。いずれにしても、そ
ういふ例会というものが、楽しく、
「また来て良かった」という感じが
ないと、どうしても退会が増えたり
入会者が減ったり、色々な意味で問
題が出る訳でありますから、やはり
毎週1回の例会をどうやって楽し
くやるかというのをどう思つた
ですね。

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

「Service Above Self」
「Service Above Self」
「Service Above Self」

るものでありますから、「50周年だから何か楽しい話を頼むわ」と。ちやうどCBCの横山さんが会長で私が実行委員長とついでにことでしたから、「笑顔で感謝」といつの標題で、昨年2月に話をして頂いた訳であり未だ。そうしたら、彼がなかなか良いことを言いました。

要するに、毎日毎日、朝起きると、「今日は3日だ。10月3日だ」と。3日は1年に12回ある訳ですが、10月3日は1年に1回だけしかない。そこで、2005年の10月3日というのは1年に1回しかない。例会の日は、「一生に1回しかないその日」、1時間、皆と顔を合わせ、「何か今日は……面白くなかった、ためにならなかった」と言えるつもりも、人の話には何かしらイントがある筈だし、プレスになる話がある訳ですが、どうもいつの風にも前向きに考えれば、一生に1回しかない時間が有効に過ごせるのではないかと。

勿論幹事さんとも会長さんとも色々あって、例会を楽しめるように毎回努力されている訳ですが、やはり一人一人といつことになると、楽しかった人・楽しくなかった人が出てくると思つたのです。特に新しい方などには、そういう専門の人を、お友達を若干作って1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月……といつうちは、いらつしやったら必ずその人が一緒になつてついでに、色々といつシニアの人に

も紹介したりする。シニアの人も逆に、「まあいいや、そろそろロータリー辞めようかな」と思っている人も中には当然ある訳ですから、そういう方にとっては若い人がアプローチして色々話をすれば、「ああ、今日は新しい友達ができた」「新しい知識が得られた」と……必ず、老・壮・若がうまくバランスを取りながら友達になつたり知り合つたりすることができるとは思わないか。そういう風に考えれば、その時間はおそろへ一生に1回——そりゃすべに忘れてしまつてしまつても、その時は「ああ、来て良かった」と。そういうことを積み上げてることによつて、それぞれの人格が磨かれて立派になつてくるのではないかと思つたのでありますから、「今日は1日しかない」。これが重要な訳です。

僕も、話をして頂いてから一年半以上になるのですが、ボケないよつに——これをやるとボケませんね。今日は何日だ、何曜日だ。朝、会社へ行つたらこれしよつ。午後はあああの用事があるなどといちいち考えながら、朝起きる度に、1日1日を確認する訳です。その中に当然ロータリーの例会もある訳ですから、そういう日は、それをまもつて、「今日の1日は一生に1回しかないんだから、大事に、怒らないよつに、笑顔で皆と付き合おう」。こつと思え

ば、普通のことでもあまり腹が立たなくなる。皆、「ロニー」笑つて帰るといつのが本場の例会でもあり、一つの退会防止という消極的な意味ではなく、楽しい場であればそこに「ロニー」したくなる人は当然増える。僕は思つて、会員としても、自信を持つて新しい会員を誘致できると思つたのです。非常に当たり前の話ではありますが、是非、そういうことをお考え頂いた上で、クラブの例会というものを充実して頂ければ有難いと思つた。

それから、実は一昨日、大阪で水保全のセミナーがございまして、松本先生と一緒に邪魔しました。要するに、今年度の重要テーマには水保全プレス——会員増強は今さつき言いましたが——識字率の向上といつことがございまして、それで、水につきましても、我々名古屋の人間は、当然木曾川といつ非常に良い水に恵まれておりますし、夏の湧水期は若干問題がありますが、普通の時に水道の飲み水が汚れているとか飲めなくなったといつことは全くないのですが、先日テレビを見ていましたら、バンングラデッシュとチヤドのことをやっていました。要するに、そういう国では非常に水に困つていまして。

土曜日は、ザンビアの元大使がお話になつたものですから西アフリカのことをベースでお話になつたのですが、これはあくまで政府もしくはODA・JICAといった形で、一方的に政府の金やボランティアといった方が向うに行つて、5本位井戸を掘つたさつです。1本の井戸を3万円位で掘れるので、是非ロータリーとしても「ロニー」して、れといつお話であつたかと思つたのですが、これは、色々ロータリーも補助金的に、ローの方からお金も考えると相手にロータリーがなきゃいかんといつた条件も色々つくのですが、一方的に「お金を出しても良いよ」といつことでしたら、こちらの国際連合地域開発センターの小野川氏もさつ言つて、今、非常に一生懸命やっていますので、そういう国連ベースや、それから外務省ベースでも色々なルートがございまして。ただ、さつなるといつの国に特化するのかなといつ心配もあるのですが、あまり1ヵ所に長くやらなければ、さついつことも「同意頂ければ、それぞれのクラブなり、それをある程度まとめた地区とか、さついつ国で。現実に、世界では10億人以上の人が、本当に飲む水もなくて、それから水を汲みに行くのに2時間も3時間もかかる」と——女の子とか女性性は、大体頭の上に水瓶を載せて、1日5時間も6時間も働かなくてはいけないといつ悪循環もある、病気になるて死んでしま

う人もあるといつのが、この間の話があつた訳であります。ザンビアといつ所は、現実にさついつことが日々起こつている訳ですから非常に説得力がある。我々は、さついつことをただ聞くだけですから、現場へ行つてもみないと分からないといつこともあるのですが、さついつ意味では、財団でお願いして、ロータリーベースで世界的な寄与をするといつことも非常に大事なことですし、それぞれのクラブなり地区でさついつルートができれば、日本の顔の見える援助といつこともできるのではないかと思つた訳です。それで、今年の6月、シカゴでロータリー100年目の記念の国際大会がございまして。この時は、シカゴの新聞で、大体毎日、ロータリークラブに対して、WHOユニセフ、そしてCDCといつアメリカ防疫センターから感謝状が出ておりました。1985年から20年間わたつてロータリーアンが6億ドルの寄付をしてくれた。それによつて、1985年では1年に35万件発症した——これは要するに、1日に100件といつことであるりますけれども、そのポリオが、2004年は1年間で100件になつた。勿論これは、絶滅までには至つていないのですが、1985年段階では122ヵ国にポリオが発症していた訳ですが、2004年には6ヵ国になつた。その6ヵ国も、内乱があつたり色々あつて、

お医者様が現場まで行って小さな子供にポリオの薬を飲ませること自体が非常に難しい国も含まれている訳ですから、なかなか根絶までには至りません。根絶すれば、今度は別のプロジェクトということになるかも知れませんが、今のところポリオで手一杯ですし、最後の最後まで来ておられますけれども、なかなか世界的な絶滅宣言は難しいということでもあります。1つの国でポリオの発症例がなくなつてから、3年間発症がないことが確認されて初めて「絶滅」ということになる訳ですから、そういう意味では、少なくとも何年かは今の状態、もしくはもう少し改善した状態が続くかも知れませんが、こうしたことに財団の存在は、非常に効果がある訳です。

しかし水の問題・識字率の問題となると、今日も色々なクラブで、図書館を作つて頂いたり小学校を作つて頂いたりと非常に良い話を伺つている訳ですが、これも世界の識字率の向上には非常に役立つことだと思います。そういうことが、今年のテーマである「Service Above Self」の1つ、それから、水の問題・識字率の問題というものが、全体がリンクしている訳でありますから、いちいち切り離して考えるよりも、トータル的に考えたService——奉仕というものが本當の奉仕だと思っております。当地区

のこのクラブにつきましては、そういうことが全くのパーフェクトだと思っております。本日に日頃の気持ちを感じさせて頂きまして、私の拙い話を終わらせて頂きます。どうも今日は、有難うございました。

懇親会
 乾杯 名古屋大須RC会長
 草野 勝彦



高橋カバナー、有難うございました。今日私、話をお聞きしまして、1日を大事にしていくというお話を頂きまして、私もいつもそう思つておりますので、皆様も今日の1日を大事にして頂きたいなと思つています。それでは乾杯をしたいと思いますので、宜しくお願いいたします。高橋カバナー、川島地区幹事の活躍をお祈りし、名古屋中RC・名古屋栄RC・名古屋大須RCの1つ発展と、1つ1つ皆様の皆様の健康を祈念して乾杯したいと思つていますので、1つ唱和下さい——乾杯！

閉会の辞 名古屋栄RC会長
 池山 健次



《今週のインタビュー》

木村 光徳

☆ 大須ロータリーに入会されて最初の例会の印象を率直にお聞かせ下さい。



「例会運営が、随分形式的である

と感じました。」

☆ 叙勲後、内面的に何か変化された事はありますか？

「殆んど変化はありませんが、もう少し自分自身を律しなければいけないと思つたようになりました。」

☆ 生きていて良かったと思つ瞬間は？

「若い頃は、よく有りましたが、具体的には恥をかしくて申し上げられません。最近では、ほとんどそんな幸せはありませんが、子供の成長を感じられた時位です。」

《今月の花 10月》

《紫式部》

ブドウの房のような紫色の小さな実をびっしりとつけた姿は深まりゆく秋を感じさせてくれます。

ムラサキシキブという名前もこの実の色から生まれたとか。純国産のこの花 “ 聡明 ” と言つた花ことはも日本を代表する才女 紫式部の聡明さにあやかつたようにです。



第1036回例会の「案内

10月20日（木）

「砂漠の故郷と日本とロータリー」

学友会役員・国際担当

愛教大・名古屋外大

桐山学園大学非常勤講師

張 素 芳さん

プリンテン委員会

川口 小折・黒柳 一男・大原 敏正